

国語辞書と新聞の使用実態に基づいた日韓外来語の生産性に関する研究

林廷修

本研究では、日韓の辞書と新聞における外来語の使用状況とその生産性について考察した。まず、辞書の考察から得られた結果として、両辞書に占める外来語の全体的な割合は日本語のほうが韓国語より高いことと、日本語における外来語が韓国語より品詞のバリエーションが多いことの二つが挙げられる。また、両言語の生産性をより詳しく見るために日韓共通の外来語を抽出し、「名詞」から「動詞」への派生と「名詞」から「形容動詞」への派生とを両言語間で比較した結果、いずれの場合も日本語が韓国語に比べて他の品詞へ派生しやすいことから、日本語のほうが質的側面でも量的側面でもより生産的であることが確認された。

次に、新聞の調査、分析から得られた結果としては、両新聞における日韓共通外来語の割合に大きな差がないことが挙げられる。また、新聞に出現したすべての外来語の累積相対出現頻度を見た結果、日本語では多様な外来語が幅広く使用されているのに対し、韓国語では特定の外来語のみが頻繁に使用されていることが観察された。最後に、新聞における品詞分布は国語辞書における品詞分布とほぼ同様の結果であった。なお、同じ外来語であっても、日本語が「名詞」から「動詞」へ相対的に派生しやすいことから、日本語が韓国語より生産性が高いという結論が導かれた。